

北関東地方における家庭菜園のバレイショ

元農林水産省胆振馬鈴^{いぶり}しょ原原種農場長
群馬県藤岡市在住

中 澤 巴

人気が高いバレイショ

北関東地方では、農家の高齢化・後継者難・農産物価格の低迷等から近年畑の遊休地が目立ち、特に養蚕の衰退は著しく、桑園は管理及び害虫（アメリカシロヒトリ）防除上から畑地化されるが、利用率は低く雑草管理だけの圃場が多くなってきている。

よって農地の貸借が容易になり、休日の利用・および定年後の趣味と実益もあり、かつ安全食品が得られる家庭菜園を営む人が多く、その栽培作物は多種多様の野菜が主であるが、どこの家庭菜園でも必ず栽培されるのがバレイショでウエイトも大きく、これには、次のような理由が考えられる。

1. 失敗が少ない

バレイショは種が薯のため必ず発芽し、その後の管理も除草・培土位で被害の大きい病害虫の発生もなく、無農薬でも十分な収穫が得られ安心して作れる作物である。

2. 収穫の喜びが大きい

地上部を利用するものは収穫するまでの成長を観察することができるが、バレイショは肥大過程がわからず、収穫時に始めてイモを手にするので喜びが大きく、また土の中から真白いイモが出てくるのが不思議であるようだ。

3. 輪 作

バレイショは6～7月に収穫されるが、主要秋野菜であるダイコン・ハクサイは8月下旬から9月中旬に種蒔きされるので、耕起・

土壌改良資材の施与等の準備期間が適度にあって都合が良い。

4. 収穫物の利用

収穫物は自家消費と土産ものや近隣への提供に使われるが、自家用は来春まで容易に長期貯蔵でき、肉ジャガやカレー・サラダ等の家庭料理に幅広く利用できる。

また悩みの一つに過剰生産があるが、バレイショの場合は提供したとき実に喜ばれ、嫌いな人は少なく処理が容易である。

栽培状況と問題点

1. 品種と種薯

男爵薯が圧倒的に多く次いでメークインである、しかし近年僅かではあるがキタアカリ・アンデス赤等が販売され始めている。種薯の入手は、農家は農協で袋単位で予約注文をし、一般者は種苗店・園芸資材店で購入され、その量は3～10kgの範囲にあり、中粒が多く小粒は見当たらない。産地は北海道で、よく選別され外観が良く芽は僅かに見える程度で良好である。

価格はkgあたり200～350円の範囲で栽培パンフレットを付けているものもある。なおキタアカリ・アンデス赤等は新品種またはバイテクいもと称して3～5個網入りで売られている例もある。

バレイショ種薯は販売業者にとっては多量に売れ、単価も高く2～3月の寒い時期に春を呼ぶ商品として魅力があり販売に努力して

いる。ただ男爵薯・メークインに偏っており、料理特性を持った新品種の普及も望まれ、生産と料理が直結している家庭菜園は良い場所であろう。

2. 植付け

切断直後に植付けされるが、切断は様々で頂部の目を大切にするため、この部分に切り目を入れることなく、メークインは横に切られている。切り口には木灰を塗布する人が多く、店の栽培パンフレットにも記載されていることと、戦時中の技術指導が高齢者に残っているゆえであろう。

木灰のゆ傷効果は認められず、肥料効果も期待できないので消費者は不必要なものを買わされているので、販売者に対する啓蒙が必要である。

植付け時期は彼岸までに植えれば良いといわれ3月中下旬が多く、植付指標になっている桜の開花時期より以前を考えると3月上旬が適期と判断されるので早める必要がある。栽植密度は株間30cm、畦幅は80cm前後で広い。菜園は地力が高く、前作の残肥も多く、その上大いも収穫を狙って多肥となり、その結果茎葉が徒長して倒伏するため広い畦間が必要になるようである。

3. 茎数の調整

萌芽後茎を間引き1～3本に調整している栽培が多く、薯栽培の常識になっている。そ

の結果いも数が減り大いもが多くなり内部品質が低下する一因になっている。

4. 培土

成育中唯一の管理作業で必ず実施しているものの重労働から不十分で、メークイン等では緑化いもが散見されるが、人力・年齢・農業の体験不足等を考えれば止むを得まい。

5. 病虫害の発生と防除

種薯の品質が向上したためウイルス病の発病率は1%以下と良好で、Yウイルス病が多く葉巻病は希である。また成育中の感染はアブラムシの寄生増殖が激しいため極めて高い。

収量に最も影響する疫病は山間部では発生しているが、平野では被害が見えるような発生は見られない。5～6月の成育時期の気温が疫病発生適温を上回っているのが理由であろう。よって病虫害ではアブラムシ寄生のみであるが、アブラムシは越冬寄主が多く5～6月に猛烈に増殖して、茎葉は分泌物で脂ぎってくる。しかし被害が目に見えず、農業に対する忌避感から薬剤散布をする人は皆無で、無農薬栽培になっている。

6. 収穫と品質

収穫は6月下旬～7月上旬に鍬・スコップ等の手掘りで行なわれるが、収穫の喜びを味わう時でもある。ただこの時50g以下の小さいものは捨てられているので、活用できる料理方法の普及が望まれる。

植物検疫のしおり（抜粋）

農林水産省植物防疫所

植物検疫とは……日本の「緑」と「農作物」を外国から侵入しようとする病害虫から守るために「植物」の「検疫」を行なっています。万が一病害虫が侵入すると、とり返しのつかない被

害を与えることがあります。



輸入禁止品 （略）

輸入検査品 （検査が必要です）

球根類、果樹類の苗木（穂木）、ジャガイモ、サツマイモ、サトウキビなどは一定期間（約1年間）植物のウイルス病検査のため隔離栽培が必要です。



収量は一般に高く大いものが多い。しかし男爵薯では中心空洞や中心部の煮えない水薯が目立つものの、自分で作り食べる満足感から問題にされることは少ない。

貯蔵は風通しや緑化防止を考えミニコンテナ・ダンボール入り、または板の間に広げられている。休眠は10月に終わるので年内に芽かきが必ず行なわれている。

バレイショ栽培に関する質問事項

家庭菜園者または農家から問われる疑問質問には次のものが多い。

1. 植付け時種薯を切断したら内部が腐っていた。

凍結被害薯・黒色および褐色芯腐れが主で、流通段階の管理・種薯生産時の環境不良によるものである。

2. 種薯の中心に穴が空いていた、植えて良いか。

中心空洞で男爵薯の大いものに多く、今でも大いもほど大きい薯が取れると思っている人がいる。種薯として使用可能。

3. 種薯の切り口に木灰を付けなかったが大丈夫か。

木灰の効果はあまり期待できない。戦時中

の方法である。

4. 茎数は何本が良いか。

1～2本は倒伏して地端部が損傷しやすく、また中心空洞が増加する。調整しないほうが良い。

5. 花は取ったほうが良いか。

戦時中の技術と思うが、収穫増はあまり期待できない。

6. 薯を煮たら中心部が煮えずガリガリする。多肥栽培が原因である。

7. アブラムシ防除薬は何が良いか。

低毒性有機リン剤・合ピ剤等が適当であろう。濃度は正確に計量する事が大切である。

8. 残り薯を捨てたいがどこに捨てても発芽して困る。

肥料の空き袋に入れて密閉して陽光下におけば腐敗する。悪臭がするので腐敗後は地中に埋めると良い。

以上、北関東の人口6万余の街における家庭菜園のバレイショについて、栽培経験の実地調査及びアンケート等を基にして取りまとめたものであるが、バレイショは今後も家庭菜園の代表的な作物として多くの人々に愛され、健康と喜びを与へ続けるであろう。

ポテトのスペル

わが国で、potatoの日本語的発音「ポテト」のせいかpotetoと間違っ書いているのをときどき目にします。英語の本場アメリカでもスペルを間違っすることがあります。

副大統領であったクエールさんの例ですが、中学生たちの綴り字競技(spelling bee)に招かれたおり、potatoに「e」をつけてpotatoeと直すというミスをしてし

まったことがありました。それなりの人が初歩的間違いをしてしまったため、この話が世界中に広がってしまいました。

このことがあってから、アメリカでは、先生が生徒たちに、『しっかり勉強しないと副大統領になってしまうよ』と言っているというジョークが生まれてしまったとか。副大統領という職は、もともと影が薄く、あまりなりたがらないためでしょうか。

(浅間和夫)